

**アメリカ政府に堂々と交渉できる党を伸ばして**

みなさん、こんにちは 日本共産党です。お近くから恐縮ですが、この場をおかりしまして、日本共産党からの訴えをさせていただきたい、と思えます。しばらくの間、ご協力をお願いいたします。

みなさん、いよいよ参議院選挙が近づいています。日本共産党は、おおいにがんばって、みなさんの願いが大切にされるような政治に切り替えていくために、全力を尽くします。比例代表では、「日本共産党」そのものがお世話になります。また、埼玉選挙区では伊藤岳さん、東京選挙区では小池晃さんが、予定候補としてがんばっています。これから、ますますお世話になりますが、よろしくお願いいたします。

「普天間基地を返還する代わりに、別の場所に『移設』するという方針は完全に破たんしました。いまや沖縄県内はもとより、日本国内のどこにも『地元合意』が得られる場所はありません。問題解決の唯一の道は無条件撤去しかありません。」

日本共産党の志位和夫委員長は、4月末から5月8日まで党首として初訪問したアメリカで、米政府相手にこうのべて、堂々と県民・国民の声を伝えました。

同じ時期、鳩山由起夫首相は沖縄にいった「県内移設」の方針を公言し、激しい怒りにさらされました。

沖縄にいった負担を強いた鳩山首相と、米国にいった沖縄県民の苦難を語り、基地撤去の交渉をした志位委員長。どちらが、日本国民の代表としてふさわしい行動か、明らかではないでしょうか。

鳩山首相が米国にいった交渉できないのは、「海兵隊は抑止力」という呪縛にとらわれているからです。

しかし、海兵隊は紛争地に真っ先に出勤し、ホバークラフトやヘリコプターを使って、敵陣に上陸し、襲い掛かる“殴りこみ部隊”です。数千人の市民を虐殺したイラク・ファルージャでの総攻撃作戦でも、沖縄の部隊が最前線に立ちました。

年間70回から80回もの共同演習を繰り返し、多くの部隊が沖縄を不在にしているといわれます。

元政府高官は、中国や北朝鮮を例に、「海兵隊が抑止力なのか非常に疑問だ」とのべています。殴りこみ部隊が緊張した地域に乗り込めば最悪の事態になるからです。米国でも、元駐日大使の特別顧問だった人が「そもそもなぜ沖縄に海兵隊が必要なのか」と疑問を示しています。

**国民の利益にたってアメリカに正面からモノをいい、現実政治を動かす唯一の党——日本共産党を大きく躍進させてください。**